

忙 申 閑

大阪府医師会の広報委員会に出させていた
ただくようになり、気が付けば12年が過ぎ
ました。この間にいろいろな学会雑誌が紙
媒体の冊子から電子ジャーナル化されるよ
うになってきました。また現状、紙媒体で
あっても電子ジャーナル化の議論が俎上
にあがる学会も多いようです。ただ、内容
が電子ジャーナルに向いている雑誌と向
いてない雑誌があるのではないですか。

学会誌はどうでしょうか。学会誌の掲載
内容としては、総説、原著論文などの学
術的な記事と理事会議事録などの会務
関係の記事とが主になっている場合が多
いように思われます。学会誌は学会員に
とって論文発表の場であり、原著論文
が載るというこ

とは若手医師にとっては専門医資格取
得の必須要件にもなります。しかし原
著論文は学会誌に掲載されることが大
事であり、これについては紙媒体か電
子化されたものかは関係ありません。
理事会議事録についても会員の目に
触れるところに掲載することは必要
ですが、これも紙媒体か電子化され
たものかは関係ありません。そのよ
うなことからすれば、学会誌は電
子ジャーナルに向いているように思
われます。

医師会や医会の会報は、学会誌とは
少し性格が違う記事が多いように思
います。最近原著論文を掲載する
医会報もありますが、会員相互の交
流につながるようなコラムなど肩
の凝らない記事がそれなりの部分

電子ジャーナル考

広報委員会委員長 川崎 康寛

を占めるものが多いように思います。こういったものは電子化されることもいいのですが、むしろ時間が空いた時に紙媒体で読むことになじむように思われます。

電子ジャーナル化のメリット、デメリットも考える必要があります。メリットとしては、まず学会会計支出の大きな部分のひとつである送料がいらなくなるということが挙げられます。会員にとっては保管のための書棚が不要で、バックナンバーの記事検索が容易になるのもメリットでしょう。一方で、デメリットとしては、定期的に郵送物が届かなくなると会への帰属意識が薄くなるというようなことも起こるのではと考えられます。

会誌の電子ジャーナル化は、会計が逼迫しているからやむなくという後ろ向きの理由も大きいでしょうが、本来は会員サービスの向上につながるという前向きの理由があってこそ進めていくべきでしょう。また当然、会によって会報の内容も異なり、会の中での位置付けも違うでしょうから一律に考えることはできないでしょう。医師会や医会の会報を発行する側の立場にいる者として、これからも真剣に考えていきたいと思っています。